

埼臨技 だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> X(旧Twitter): @sairingi

第53回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開 催 日 : 2025(令和7)年12月7日(日)

開 催 場 所 : ソニックシティ

テ ー マ : ホップステップジャンプ

サブテーマ : ～ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう ～



～ 飛躍する未来に向けて、今学ぼう ～

【抄録作成のポイント】

第53回埼玉県医学検査学会で学術部を務めさせていただきます、春日部市立医療センターの永井克紀と申します。演題、抄録の受付が、5月1日より開始されました。そこで、発表に必要な抄録作成のポイントについてご案内します。

抄録は研究内容を簡潔にまとめたものであり、発表の概要を伝える重要な役割を果たします。効果的な抄録を作成するためには、以下のポイントを参考にしてください。まずは、演題を考えましょう。内容が伝わりやすく、明瞭かつ簡潔にすることを心掛けてください。執筆に困った場合は、過去の様々な抄録を参考にし、その書き方や表現方法など参考にしてみてください。文章は基本的に次の4つに分けて構成されています。

(背景・目的) 背景を考慮し、明確にしたい点を簡潔にまとめましょう。

(対象・方法) 対象の基準、検討データ、データの抽出方法、評価方法については客観的に記載します。

(結 果) 対象および方法に基づき、得られた事実や数値を明確に記述します。

(考察・結語) 結果から導き出した考え、今後の展望、課題を記載し、結語において明らかとなった知見を簡潔にまとめましょう。

抄録が作成されたら、先輩や上司にチェックしていただき、誤字脱字や適切な表現についてフィードバックをお願いしましょう。「内容については当日スライドで示します」のように、発表の主旨が分からない抄録は、良いものとは言えません。学術実績として残るのは、当日のスライドではなく抄録だからです。ぜひ、素晴らしい知見を後世に残してください！

抄録は日本臨床衛生検査技師会総合情報システム(JAMTIS)を用いて、テキスト入力方式または、ファイルアップロード方式のいずれかで作成可能です。詳細については、学会ホームページ“演題募集”をご覧ください。多数の演題の申し込みをお待ちしております。

(文責: 第53回埼玉県医学検査学会 学術部 永井克紀)

【初めての学会発表】

第53回埼玉県医学検査学会にて学術を担当しております埼玉県立大学の岸井こずゑと申します。

私の初めての学会発表は、日常検査で遭遇した「ちょっと変わった薬剤耐性菌：Hetero vancomycin resistant *Staphylococcus aureus* (hetero-VRSA)」についての報告でした。先輩技師のアドバイスを受けながら薬剤耐性機序について勉強し、先行研究や患者さんの抗菌薬投与歴を調べ、抗菌薬投与が耐性化に及ぼす影響を実験にて検証するなど、一步踏み込むごとにどんどん興味が湧いてきたことを覚えています。発表本番では、質問に答えられるかどうかドキドキしながら壇上に立ち、早口ではありましたが最後のスライドまで無事に発表を終え、質問にも何とか答えることができました。発表後には大きな達成感を得ることができ、次へ向けてモチベーションもあがりました。

学会発表ではプレゼンテーションスキルを学ぶだけでなく、自信にもつながりコミュニケーション能力が高くなる実感を得ることができます。また、他の人の発表も理解できるようになり、ネットワークを広げるチャンスも得られます。

初めての学会発表のために、まずはアドバイスを与えてくれる方を探しましょう。それは職場の先輩技師かもしれませんし、研修会で知り合った先輩技師かもしれませんが、手を挙げれば助けてくれる方は必ずいます。次に、学会に参加して多くの方の研究発表に触れましょう。研究の進め方、まとめ方、発表の仕方などが徐々にわかってきます。あとは研究を遂行して挑戦するのみです！



(写真 実行委員会の様子)

第53回埼玉県医学検査学会が多くの方の挑戦の場になることを願っています。

(文責：第53回埼玉県医学検査学会 学術部 岸井こずゑ)



ワークライフバランス推進委員会 研修会開催される

令和7年2月9日(日)ワークライフバランス推進委員会主催の研修会がRaiBoC Hallにて開催された。埼玉医科大学 保健医療学部 看護学科 教授の大賀淳子氏、人間科学総合大学 心身健康科学科教授の中山和久氏による講演があり、盛況のうちに終了した。

以下、研修会に参加した会員の感想文を掲載する。

上尾中央総合病院

田名見 里恵

今回の研修会は「明日からの貴方の日常がより豊かになるために」というテーマのもと、集合形式で開催された。

講演1では「アサーショントレーニングさわやかな自己表現」と題し、大賀淳子氏からご講演があった。アサーションとは自分も相手も大切にしようとする自己表現のことで、いくつかの事例は少人数でのグループディスカッションも行いながら研修は進められた。職場環境では一般的に感情的な言動は好ましくないとされることが多いが、主観的な気持ちを感情的にならずに表現することは、自他尊重のコミュニケーションには必要ということを学ぶことができた。



【グループディスカッション】

講演2では「パワースポットの科学」と題し、中山和久氏からご講演があった。人は「からだ」、「こころ」、「社会」が相互に影響して成り立ち、3つの相互作用を総合的に捉えていくというBPSモデルの提示があった。日常業務ではなかなか意識することが無い生物的、心理的、生活環境というそれぞれの側面が作用する仕組みやバランスについて、考える機会を持てたことが印象的であった。



【パワースポットの科学 講演】



研究班研修会報告

テーマ 「薬剤師からみた薬物検査の考え方」

主催 臨床化学検査研究班

実施日時：2025年1月15日 19時00分～20時00分

会場：Web開催 教科・点数：専門教科－20点

講演：救急・集中治療で検査結果を元に介入するには

講師：鈴木 善樹（埼玉医科大学病院 薬剤部）

参加人数：会員66名

出席した研究班班員：北川裕太郎 杉村楓 廣瀬良磨 永井謙一 稲葉拓郎 河野邊和弘
関根梢恵 田中満里奈

研修内容の概要・感想など

今回の研修会では、「薬剤師からみた薬物検査の考え方」というテーマで、薬剤師である鈴木氏が講演を行った。

前半では、臨床検査技師と薬剤師の共通点や相違点について、また、それぞれの職種の強みを活かし、実際の業務においてどのように貢献しあえるかといった内容について、具体例を交えた提案があった。実際の業務における連携の1例としては、「薬剤が検査値に与える影響の情報共有」が挙げられ、脂質異常症の治療薬として用いられる「スタチン」や、鎮静用剤として用いられる「プロポフォール」などの投与によるCK上昇についての紹介があった。日常業務において、検査データを正確に解釈するためには、投与薬剤による影響も把握しておく必要があることを改めて実感した。

後半では、救急医療の実際の症例をもとに、検査技師から報告された検査データが、どのように薬剤選択等に影響していくかの具体例が示された。1例として、消化管出血の症例を挙げ、PT-INR値(5.80)の結果値が、出血傾向を抑える薬剤であるケイセントラの選択に寄与し、治療へと活かされた事例についての解説があった。消化管出血につながる内服薬の解説や、薬剤師目線での検査値の解釈も非常に勉強になった。

検査結果がなければ、患者の状態把握や、薬剤師による使用薬剤の選択が不可能であるように、我々にとっても、患者の投与薬剤等の情報は、検査データの推移をみる際に非常に有用な情報となる。医療チームにおいては、多職種がお互いに補い合い、医療に貢献することが大切である。他職種による講演は、コメディカルスタッフの医療におけるつながりを再認識する良い機会となった。また、他職種からどのような場面で検査技師が、どのような役割を求められているかについても、改めて知ることができた。

講演後には、質疑応答の時間を設け、チャットにて参加者から寄せられた質問に対し、鈴木氏に回答いただいた。薬物投与量の算出方法についてなど、検査業務にも関わる部分に関する質問が複数寄せられ、日常業務における疑問点などを聞くことができた。今回の講演が、参加者の他職種連携への意識を高めるきっかけとなることを望みたい。

(文責：田中満里奈)

テーマ 微生物分野における質量分析機について

主催 微生物検査研究班

実施日時：2025年2月21日 19時00分～20時30分

会 場：ソニックシティビル 601会議室 教科・点数：専門教科ー20点

講演 1：MALDIの基礎と微生物学的検査への応用

講師 1：高橋 敏宏（株式会社島津製作所）

講演 2：当院での運用方法について

講師 2：伊吹 早紀（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター）

講演 3：質量分析機が出会わせてくれた2症例

講師 3：小棚 雅寛（埼玉医科大学病院）

参加人数：会員20名 賛助会員10名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井芙美 伊波嵩之 渡辺駿介 大塚聖也

伊吹早紀

研修内容の概要・感想など

今回は「微生物分野における質量分析機について」をテーマに研修会を開催した。

講演1はMALDIの基礎と微生物学的検査への応用についての内容であった。MALDIはMatrix Assisted Laser Desorption Ionizationの略で、質量分析の1つの手法である。イオン化させた試料の分子1個あたりの分子量を測定することで、分子構造の解析を行っている。質量分析の活躍の場は医薬品や食品など様々であるが、この特徴を利用して微生物の同定も可能としている。最近ではプロテオタイピングという細菌の種を同定するだけでなく、さらに細かい血清型や亜種などの株レベルの識別が可能となる手法がある。例として、「大腸菌」と同定するだけでなく、「大腸菌0157」と血清型の特定が可能となると解説があった。現在は研究段階であるが、プロテオタイピングは微生物同定の高度な利用法として期待を寄せられている。

講演2は検査業務での運用についての内容であった。質量分析機の利点として、細菌同定の迅速性（タイムパフォーマンス：タイプ）、分離したコロニーが1コロニーあれば測定可能、様々な菌の同定、血液培養陽性のボトル内容液からの直接同定、ランニングコストが安価など挙げられる。伊吹氏は特にタイプに優れている点を推していた。伊吹氏の施設では質量分析機とスクリーニング培地を組み合わせ、耐性菌の疑いがある菌を報告している。また、血液培養検体から直接同定可能である特徴を利用し、髄液や関節液などの無菌的な検体を血液培養ボトルに入れ、陽性となったボトルより直接同定を実施している。このような運用をすることでより迅速な抗菌薬適正使用や院内感染対策に貢献しているとのことであった。

講演3では質量分析機が出会わせてくれた2症例についての内容であった。そのうちの1つは血液培養より*Dysgonomonas capnocytophagoides*が検出された症例であった。質量分析機で本菌と同定され、薬剤感受性検査ではメタロβ-ラクタマーゼの産生が示唆された。本菌は広範囲β-ラクタム系、アミノグリコシド系、マクロライド系、フルオロキノロン系など多くの薬剤に耐性を示すとの報告がある。質量分析での同定の他に遺伝子学的解析を行い、β-ラクタム系抗菌薬に耐性を示すClassB MBL遺伝子を保有していることを確認した。質量分析機はあらゆる菌種を同定することが可能であり、初めて見る菌も多い。小棚氏は初めて出会った菌は結果を鵜呑みにするのではなく、精査して報告することが必要であると述べていた。

従来では細菌が保有する酵素や糖分解能などの生化学的性状を確認することで同定をしているが、報告までに数日必要となる。質量分析による同定はタイプが良く、迅速な診断や治療の補助となる。また、報告可能な菌名が増えている。質量分析機は我々がまだ知らない菌たちと出会わせてくれる可能性を秘めている。

(文責：大塚聖也)

テーマ **ベテラン技師に学ぶ！ 病理技術**

主催 病理検査研究班

実施日時：2025年2月27日 19時00分～21時00分

会 場：浦和コミュニティーセンター 第13会議室 教科・点数：専門教科－20点

講 演 1：私の25年史 病理検査四方山話

講 師 1：沼上 秀博（地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立呼吸器・
循環器病センター）

講 演 2：水の性質を考慮した病理技術

～ 同じ染色液なのに、仕上がりに差が出ることはありませんか？ ～

講 師 2：渡邊 俊宏（株式会社アムル 上尾中央臨床検査研究所）

参加人数：会員49名

出席した研究班班員：三鍋慎也 細沼佑介 小島朋子 松本祐弥 三瓶祐也 ニツ橋雄一
渋谷樹 佐藤達也

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は、長年病理検査に携わってきたベテラン技師2名による業務に生きる病理技術をテーマに開催した。

沼上氏は、業務で行っている具体的な工夫や研究班として行った外部精度管理について講演を行った。具体的な工夫として、トリミングでは薬液の浸透やブロックの保管を考えると、検体を3mmの厚さにすることが最良であるとのことであった。トリミング用のカセットを作成して作業を行っており、他検体の組織のコンタミネーションに注意が必要とのことであった。また、染色における液の持ち越し量の低減が、作業量とコストの削減や標本の品質の向上に繋がるとのことで、検討の結果が解説された。一番効果がある方法は、染色かごをゆっくり持ち上げることであった。外部精度管理として行われた脱灰についてのアンケートでは有意な回答が得られており、他施設の手技が学べる機会となっていた。また、脱灰液による染色性への影響についての検討として、脱灰液の種類や浸漬時間に伴う各種染色への影響が分かりやすく解説された。最後に、10年前に標本作成の自動化についての未来予想を行った内容と、現状の普及の状況が比較された。様々な検討の結果が詳細に解説され、業務での実践に繋がる内容であった。

渡邊氏は、同じ染色液なのに仕上がりに違いがあるのはどうしてなのか、という問題提起より、標本作製に直結した水の性質について4つの観点から解説した。一つ目は粒子の運動について、温度と運動の関係や粒子のサイズと運動の関係について解説した。粒子のサイズと染色速度の関係についてはワンギーソン液を例に、短時間で染色した場合酸フクシンが薄くピクリン酸が良く染まった標本になることを提示した。二つ目は染色と溶質について、溶媒の中では溶質の結晶化と溶解は同時に起こっているため、この現象を理解して染色を行うことで、色ムラを軽減させることができるとのことであった。三つ目は界面について解説した。界面には特殊な力があるため、切片の液交換を効率よく行うことが可能であり、不安定な界面の力を巧みに使うことが重要とのことであった。四つ目は表面張力について解説した。水中からスライドガラスを引き上げる際に、スライドガラスに張り付く水の量は、速さや角度で変わってくる。薄切後の切片の引き上げの角度や、染色における脱水操作の速さなど、表面張力を考慮して行うことが重要であるとのことであった。

本研修会では、現在行っている業務がどのように工夫されてきたか、また技術の根拠となる部分を聞くことができた。より良い標本作製するために、今ある技術の理解を深めることの重要性を感じた研修会であった。

(文責：渋谷樹、佐藤達也)

**令和7年度
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会
第1回 理事会議事録**

日 時：令和7年4月10日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ．行動報告 Ⅱ．報告事項
Ⅲ．承認事項 Ⅳ．議題

出 席：(理事)松岡 猪浦 山口 濱本 阿部
西田 三木 佐瀬 網野 伊藤 藤原
塚原 神嶋 長谷川 神戸 小林
工藤 久保田 原 土田
(監事)遠藤

Zoomにて出席

(理事)長岡 笛木

欠 席：(監事)細谷

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は22名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、松岡優会長が務めることとなった。

Ⅰ．行動報告

(令和7年3月6日～令和7年4月9日)

3月6日(木)令和6年度第13回理事会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
三木、佐瀬、網野、藤原、塚原、
神嶋、長谷川、神戸、小林、工藤、
長岡、久保田、原、土田、遠藤

3月6日(木)第2回災害共済委員会

(メディセオ施設見学)：

松岡、猪浦、濱本、西田、土田、
笛木、小林

3月7日(金)会計部期末作業：工藤

3月10日(月)日本医療科学大学卒業式：松岡

3月12日(水)日臨技災害研修会 (Zoom参加)：

松岡、猪浦、濱本、西田

3月14日(金)令和6年度臨時会員総会：

松岡、猪浦、山口、濱本、西田、
三木、佐瀬、網野、伊藤、藤原、
塚原、神嶋、笛木、長谷川、神戸、
小林、工藤、久保田、原、土田、
遠藤、細谷

3月14日(金)埼玉県立大学卒業式・大学院修了式：神戸

3月16日(日)タスクシフト指定講習会 (埼玉県033)：猪浦、佐瀬、小林、伊藤、
藤原、土田、原

3月17日(月)会計部期末作業：神戸

3月18日(火)第53回埼玉県医学検査学会実行委員会：伊藤、藤原

3月20日(木)会計部期末作業：工藤

3月23日(日)会計部期末作業：小林

3月24日(月)令和6年度第2回精度管理専門委員連絡会議：松岡

3月25日(火)会計部期末作業：神戸、小林

4月3日(木)日本医療科学大学入学式：松岡

4月5日(土)会計部決算作業：小林、神戸

4月6日(日)第42回臨地実習指導者講習会 (関甲信支部)：塚原

Ⅱ．報告事項

1 事務局

- 1) 3月6日(木)第2回災害共済委員会メディセオ施設見学を行った。(別紙資料1)
- 2) 3月10日(月)日本医療科学大学卒業式に松岡会長が出席した。(別紙資料2)
- 3) 3月14日(金)越谷市衛生研究所精度管理専門員に山口純也副会長を推薦した。
- 4) 3月25日(火)日本診療情報管理学会の名義後援申請について承認回答した。
- 5) 3月27日(木)公益インフォメーションに令和7年度事業計画を提出した。
- 6) 4月2日(水)埼玉県立大学の入学式に電報を送った。
- 7) 4月3日(木)日本医療科学大学入学式に松岡会長が出席した。(別紙資料3)

2 総務部

- 1) 4月15日(火)だより第551号発行予定
- 2) 3月16日(日)タスクシフト指定講習会 (埼玉県033) が開催された。(別紙資料4)
- 3) 4月20日(日)タスクシフト指定講習会 (埼玉県 034) を開催予定。
：猪浦、佐瀬、塚原、伊藤、西田、笛木、
藤原
- 4) 5月18日(日)開催予定のタスクシフト指定講習会は中止となった。

3 事業部

- 1) 新入会員向け研修会を予定している。
7月30日(水) 19:00～20:30

講演1：臨床検査技師会とは？

～埼臨技について～

講師1：松岡 優（埼玉医科大学病院）

講演2：日当直業務について「輸血編」

講師2：久保居 由紀子（独立行政法人
地域医療機能推進機構 埼玉メディカルセンター）

講演3：日当直業務について「臨床化学編」

講師3：杉村 楓（越谷市立病院）

4 学 術 部

- 1) 4月9日(水) 6月・7月生涯教育研修プログラムを埼臨技ホームページに掲載した。

5 精度保証部

特になし

6 会 計 部

- 1) 令和7年度正会員費1名5,000円、合計5,000円の入金があった。
- 2) 日臨技より、日臨技生涯教育推進研修会助成金126,000円の入金があった。
累計619,000円／13回
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第550号Web版8P 41,800円、埼臨技会誌Vol.71 No.3印刷代496,540円、仕分費25,542円、合計563,821円を支払った。
- 4) ディーライズ株式会社に精度管理用PC代として88,800円を支払った。
- 5) 医師会より令和6年度臨床検査精度管理事業オープン調査費として2,253,969円および令和6年度臨床検査精度管理事業ブライント調査費858,800円の入金があった。

7 精度管理委員会

- 1) 3月27日(木) 令和6年度埼玉県医師会臨床検査精度管理調査講評会が開催され320名の参加があった。

8 一都八県会長会議

特になし

9 日臨技関甲信支部

特になし

10 日臨技

- 1) 3月22日(土) 第7回日臨技理事会が開催された。(別紙資料5)

11 第53回埼玉県医学検査学会

- 1) 3月18日(火) 第5回実行委員会が開催された。(別紙資料6)

Ⅲ. 承認事項

1 事務局

- 1) 会員動向(令和7年度分)

令和7年4月1日現在
会員数 3,597名[令和6年度会員数3,612名]
(新入会員46名)
賛助会員 33社[令和6年度72社]
承認された。

- 2) 令和7年度定時総会議案書(案)について
(別紙資料7)

上記の件について、濱本隆明事務局長より発言があり、審議の結果、承認された。
なお、今回の議案書より、永年会員表彰者の氏名などは個人情報からの観点から掲載はせず、対象者人数のみ掲載することとした。また、第62回日臨技関東甲信支部・首都圏支部医学検査学会学会長候補者として、松岡優氏を議案上程することとした。

2 総務部

- 1) 来年度(令和8年6月)の定時会員総会の日程について

上記の件について、三木隆治総務部長より発言があり、審議の結果、第一希望6月12日(金)、第二希望19日(金)、第三希望18日(木)とする。

なお、今後、会場予約は総務部が行うことを確認した。

3 事業部

特になし

4 学術部

- 1) 埼臨技会誌編集委員の退任について

齊藤雅一氏（埼玉医科大学病院）

退任日：令和7年3月31日

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 2) 遺伝子染色体検査研究班班員の退任について

飯野望氏（埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科）

退任日：令和7年3月31日

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

- 3) 生理検査研究班班員の追加について

(別紙資料8)

草間冬子氏（埼玉県立病院機構 埼玉県立循環器・呼吸器病センター）

令和7年4月1日より委嘱

上記の件について、久保田亮学術部長より発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部

特になし

6 会計部

1) 退職手当金支給規程の修正について

(別紙参照9)

上記の件について、神戸考裕会計部長より発言があり、審議の結果、承認された。

7 精度管理委員会

特になし

8 第53回埼玉県医学検査学会

1) 6月に開催される定時会員総会、タスクシフト指定講習会や各研究班主催の研修にて、第53回埼玉県医学検査学会のPRをさせていただきたい。

上記の件について、伊藤隆史学会担当理事より発言があり、審議の結果、厚労省主催のタスクシフト指定講習会は不可とし、定時総会と各研究班主催の研修会でのPRは承認された。

9 関甲信支部・首都圏支部医学検査学会

特になし

IV. 議題

1 事務局

特になし

2 総務部

特になし

3 事業部

特になし

4 学術部

特になし

5 精度保証部

特になし

6 会計部

特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

あ と が き

穏やかな陽気が心地よく、日中は汗ばむような日も増えてきました。日々の業務に加え、研究班の研修会も増えてきて、少しずつ日常に“学び”の時間が加わってきます。忙しい中にも、前向きな取り組みがあるのは励みになりますね。

また、新年度が始まり1か月。新人さんたちも少しずつ職場に慣れ始めた頃かと思いますが、当直業務や繁忙な日々の中、周囲の温かい声かけやちょっとした気遣いが大きな支えになる時期でもあります。

不規則な勤務や急な対応などで、体力的に大変な日もあるかと思いますが、無理のない範囲でお互いに支え合いながら過ごしていけたらと思います。季節の変わり目ですので、どうぞ体調にも気をつけてお過ごしください。

(小林 記)

